オービス orbis リングフラッシュ

この度はオービス リングフラッシュをお買い上げ頂き、ありがとうございます。
エンライトフォト社（本社：ニュージーランド）が開発したこのモジュール式フラッシュアクセサリーは機動性に優れ、美しく個性的かつ手軽な、まったく新しいライティング方法を実現します。

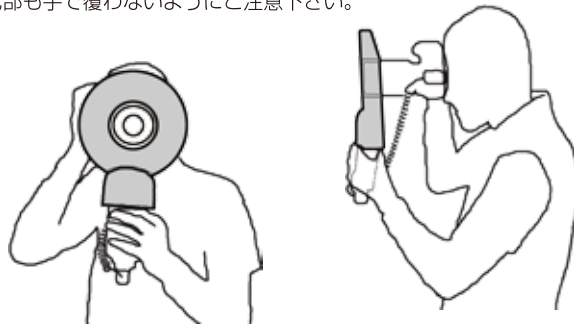
オービス リングフラッシュは広告写真家と光学デザイナーとの幾度にもわたる試作・試写から生まれた製品です。その結果、これまでは高額なスタジオ用大型ストロボの独壇場であった、被写体を美しく均一に照らすリングライト撮影を、誰にでも手の届く価格で手軽に行えるようになりました。
ひとたび使い慣れていただくと、これが大変便利な製品であることに気付かれるはずです。本体は軽く強靱な ABS 樹脂から出来ており、また極めて均一な配光性を誇る発光面を備えています。
お使いになるには、ワイヤレスシンクロ機能を備えたカメラなら単体ストロボ以外は不要、シンクロコードを用いる場合にはストロボとカメラの他に 1 本の TTL 増灯ケーブルさえあればすぐに撮影を始めることが出来ます。

多くの拡散・ディフューズ用ストロボアクセサリーは、光をやわらげるために大きな光量ロスをともないます。
しかしオービス リングフラッシュは 2 年に及ぶ研究開発の結果、ストロボの光量ロスを極限まで抑えつつ美しい拡散光を実現しています。その優れた特徴を完全に把握してあなたの撮影にお役立ていただくために、以下に続く取扱説明を十分にお読み下さい。

オービスリングフラッシュは、使用者が自己責任でお使い下さい。この製品の説明書に記載した注意事項を読まず、あるいは理解せずに誤用や取り扱い不注意によってストロボやカメラを故障・破損させた場合、エンライトフォト社並びにその代理店はその一切の責を負いません。

（装着可能機種）
オリンパス FL36R & FL50
キヤノン 300TL, 420EX, 430EX, 540EZ, 550EX, 580EX I & II
ペンタックス AF540、ソニー F56, ミノルタ 5200
ニコン SB-28, SB-600, SB-800, SB-900
メッツ 48 & 58 ほか

オービス リングフラッシュの使い方

1. 最良の結果を得るには、屋内ではカメラの感度を ISO400 以上に、屋外では ISO200 程度にセットし、フラッシュは必ず TTL 自動調光モードにセットして下さい。
2. ストロボをワイヤレスで同調させる場合はカメラ側コマンダーを正しくセットし、ストロボの電源を入れて下さい。TTL 増灯コードを使って同調させる場合には、そのケーブルがカメラとストロボに正しく接続されていることを確認して下さい。
3. ストロボの発光部を 90 度上に向け、そこにオービス リングフラッシュを差し込んで下さい。オービスのストロボ取り付け口はクリップ式になっていますので、奥で止まるまでしっかりと差し込んで下さい。この時、オービス リングフラッシュの発光面とストロボの AF 補助光窓は同じ方向を向くようにして下さい。
4. 最良の配光効果を得るために、ズーム内蔵ストロボをお使いの際にはズームを望遠側にセットして下さい。
5. 左手でストロボの上半分とオービス リングフラッシュの下部を同時に握り、右手でカメラを握って撮影を開始して下さい（下図参照）。
6. オービス リングフラッシュを使っているときは、レンズのズーミングは行えませんので、予めズーム域をセットしてからお使い下さい。また、ピントはオートフォーカスにしてお使い下さい。
7. オービス リングフラッシュを保持する際、手で発光部を覆わないようにご注意下さい。また、ストロボ側の AF 補助光を利用するときには、その発光部も手で覆わないようにご注意下さい。

8. カメラとストロボを TTL 自動調光にセットし、構図を決めてシャッターを切って下さい。
9. ストロボから出た光は、オービスリングフラッシュ内部の特殊設計ライトトンネルを通り、均一に被写体を照らします。

【重要】
オービス リングフラッシュのクリップ部分は、ストロボの全重量を支える設計になってはいません。オービス リングフラッシュを取り扱う際には、クリップに不用意な力が加わらないよう必ずストロボ部分も一緒に手に持って下さい。また撮影しないときは、オービス リングフラッシュからストロボを外して別々に保管して下さい（ストロボを付けたまま長期間保管すると、取り付けクリップの強度が弱まることがあります）

オービス リングフラッシュを手で持ったまま撮影したくない方のために、エンライトフォト社では保持ブラケットを準備中です。委細については今後、www.orbisflash.com でご確認下さい。

ご注意
どのようなストロボでも、短時間でたくさんの発光を繰り返すとストロボがオーバーヒートすることがあります。このような場合はストロボの使用を中止し、ストロボの取扱説明書を参照して対処して下さい。オービス リングフラッシュは通常の撮影状態での使用を想定して製造されているので、エンライトフォト社ならびに代理店ではこうしたオーバーヒートやそれに関するケガ・故障ならびにあらゆる損害について一切の責を負いません。

オービスリングフラッシュについての tips
写真は芸術のひとつですが、ライティングはまたそれ自体がひとつの芸術として分類できます。下記に挙げるいくつかの tips をお読みいただき、素晴らしいライティングをお楽しみ下さい。

近距離撮影
オービスリングフラッシュを近距離または低照度下で使用するとき、リングフラッシュの発光部分が被写体の正面中央に向いていることを確認して下さい。
もしあなたのカメラの TTL 自動調光が正しく行われない場合は（被写体反射率によって露出が狂う場合など)、正面から少しズラして構えることによって撮影結果が向上する場合があります。

露出アンダー
いくつかのカメラメーカーでは、場合によってはストロボ光を 1/2 段ほど少なめに発光させるように設計している場合があります（露出オーバーによる白トビを防ぐため)。これを解消するには、カメラやストロボ側の露出補正ダイアルをプラス側に回すことで、より自然な結果が得られる場合があります。好みの撮影結果が得られるまで、御自分で何通りもお試し下さい。

被写体と背景を同時にオービスで照らす
光源から被写体が離れると、光量はその距離の 2 乗に反比例して減衰します。オービス リングフラッシュを使って被写体と背景とを同時に照らしたいときは、なるべく被写体を背景の近くに立たせてください。この時、背景にはベタ色の無地の背景を選ぶと、被写体の輪郭の光彩が強調されて個性的な写真が撮れます。

背景を写し込みたくないとき
被写体の背景を写し込みたくないときは､被写体をカメラからある程度離して、背景が露出アンダーになるように絞りをセットします。こうすればオービスリングフラッシュは人物だけを浮かび上がらせるので、暗い背景から被写体だけが目立つような効果を得ることが出来ます。

そのほかの撮影 tips は www.orbisflash.com をご覧下さい。

私たちの目標は、あらゆるフォトグラファー達のために、機能的に設計された、丈夫で、小型軽量で、お求め易い価格の製品を作り続けることです。

エンライトフォト社からのメッセージ

エンライトフォト社は、プロの広告写真家によって創業·経営されています。われわれは写真家達は常にクライアントの求めに応じてより良い写真を撮影しクライアントの利益を最大限に伸ばすことが課題であるとということを理解しています。
そしてわれわれは、その良い結果を出すための信頼性が高く汎用性がある機材の重要性についても認識しています。そのため、我々は今後もプロとハイアマチュアのための、革新的な製品をマーケットに紹介し続けていきます。

エンライトフォトは、写真と自社製品について注意を払っています。また、自分たちが生活し働く環境についても、注意を払っています。
自分たちが住んでいる通りや街で、一体どれだけのゴミが生まれているか、考えてみましょう。普段の生活の中で、いかにしたらゴミを減らしていけるでしょうか。ゴミが少なく住みやすい場所は、すなわちきっと写真を撮るにも良い場所になっていくのではとわれわれは考えています。

エンライトフォトは、なるべく環境負荷を減らすべく、活動しています。
われわれは、製品の過剰包装を改め、実用充分なパッケージングで製品を送り出しています。オービスリングフラッシュは丈夫な筐体で出来ているので、発泡スチロール樹脂などでくるむ必要はありません。
もし製品の外箱が不要になったら、破いてコンポストに入れるか、あるいは再生紙としてリサイクルして下さい。パッケージにはリサイクル時に障害となるポリプロピレンコーティングなどは施していませんので、そのまますぐに古紙処理に回すことが出来ます。

エンライトフォトの環境ポリシーは、単に製品関連だけのことにとどまりません。
われわれは事務所内での紙やプラスチックの使用を極力減らし、またこまめに事務所や工場の明かりを消すことで電力消費の削減にも努めています。われわれは、これら全ての努力はわれわれの生活と製品の品質を制限するものではなく、逆に向上させるものだと考えています。

われわれは完全ではありませんが、自分たちで出来ることはなるべく努力しています。こうした企業姿勢を、ユーザーの皆様にもご賛同いただければ幸いです。

デジタルカメラのヒストグラムについて

ヒストグラムとは？
そしてそれがオービス リングフラッシュに意味するものとは？

オービス リングフラッシュはフィルムカメラでももちろんお使いいただけますが、今日はデジタルカメラでお使いになる方のほうが圧倒的に多いことでしょう。デジタルカメラでもっとも便利な機能の一つといえば、カメラ背面の液晶で撮影画像を確認できることではないでしょうか。
しかしながら、屋外では液晶が見づらく正しい露出かどうかの判断に苦しむときがあります。そうしたときに、ヒストグラムの読み方を理解しておくと大変便利です。

ヒストグラムとは、撮影画像のデータをグラフ化して表したものです

全ての写真は光と影から成り立っており、その光と影をバランスよく備えた写真が良い写真として判断されることが一般的です。ヒストグラムはそのバランスを直感的に視認できるグラフで、屋外で画像の絵柄の確認が困難でも、このグラフだけは一目で確認することが出来ます。

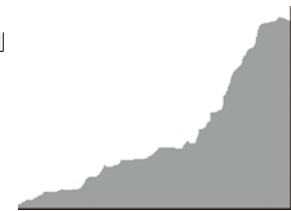
まず手始めに、お使いのカメラの取扱説明書を読み、再生モードで撮影画像のヒストグラムを表示させて下さい。

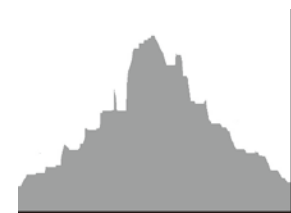
グラフの横方向はシャドーからハイライトまでの色波長別のデータの分布を示しており、グラフの一番左は一番暗いシャドー、その反対に右端はハイライト部分を示しています。グラフの縦方向は、そのデータの集積度（露出の偏り）を示しています。
このことにより、ヒストグラムの山が左側に寄っているようだと『全体的に暗い、黒っぽい写真』、グラフが右に寄っていれば『明るくデータのトビがある写真』、山が中央から左右になだらかな稜線を描いていれば『露出が合ってデータが揃った綺麗な写真』であると言うことが出来ます。

ヒストグラムの読み方

暗すぎる写真の例

この写真では光情報が少なく、全体的に露出アンダーです。これが最初からの撮影意図なら問題はありませんが、そうでない場合はストロボの光量を上げる、ISO 感度を高くする、あるいは絞りを開けるなどの対策を取ることで露出を救うことが出来ます。

明るすぎる写真の例

この写真では明るすぎて細かなディテールが全て吹き飛んでしまっており、データ上に画像として残っていません。こうした場合は ISO 感度を下げ、レンズを絞り、山を中央に戻すための調整が必要です。

適正露出の例

黒く潰れたり白く飛んだりしている部分が少なく、あらゆる色のデータが綺麗に揃っています。もし後から画像を加工する場合も、こうした綺麗にデータが揃った写真だと画像データの破綻が置きにくく、加工もし易いです。

エンライトフォト　オービス リングフラッシュ日本総代理店
銀一株式会社 海外商品部
〒104-0061 東京都中央区銀座 3-11-14
TEL.03-5550-5036　FAX.03-3541-2445
www.ginichi.co.jp